

目 次

2010 年度総括	1
2010 年度事業報告	2
1 . 今治市民活動センター管理運営事業	2
(1) 施設の運營業務	2
(2) 市民活動団体のスキルアップのための研修業務	5
(3) 市民活動基礎講座開催業務	9
(4) 機関紙発行とこれに付随する情報収集業務	10
(5) 市民活動団体相互の交流推進業務	10
(6) ボランティアコーディネート業務	11
(7) 相談業務	11
(8) 登録団体アンケート	16
2 . その他の事業	30
(1) 情報提供事業	30
(2) 審議会・委員会への参加	30
(3) 講師派遣	31
(4) 協力事業	31
(5) 資源回収活動事業	31
(6) いまばり夢学校開校準備事業	31
(7) 「しまなみ資源」を活用した地域振興事業	31
3 . 会議に関する事項について	32
(1) 総会	32
(2) 理事会	32
2010 年度決算	33
1 . 2010 年度収支計算書	33
2 . 2010 年度貸借対照表	34
3 . 2010 年度財産目録	35
4 . 2010 年度監査報告書	36
2011 年度事業及び予算	37
1 . 2011 年度事業計画書	37
2 . 2011 年度事業予算書	41

2010 年度総括

活動をはじめて10年の節目の年を迎えました。今治市内には、24のNPO法人が福祉や子育て、まちづくりなどの分野で活動しており、任意団体を含めると、数百という市民の自発的な活動が展開されています。行政ではカバーできにくいニーズに、市民目線できめ細かく対応する活動に期待が寄せられると共に、社会の公益増進を市民が担うという理念が浸透しつつあると感じています。

今年度は、指定管理者として運営する「今治市民活動センター」事業が主要な事業となりました。官設民営のセンターであることから、設置者の今治市と目標の共有、役割分担などを進め、ハード・ソフト両面の支援事業を展開しました。農山漁村の自立、開発途上国の自立をテーマにトークショー形式で開催したスキルアップ研修では、草の根レベルの活動実践者の交流の機会になり、必要なネットワーク構築の議論できたことが成果です。また、こうした草の根の活動の事例共有を通して、参加者が個別具体の諸問題に関心を持つきっかけにもなりました。今後、求められるのは、それぞれ特性をいかし、共通の目的で課題解決を目指すプラットフォーム形成です。今治市において、これまでゆるやかにつながってきた多様な関係者が、実質的な「協働」活動を展開する小さな経験を重ねていければと願います。

新たな年度は、政府が打ち出した“企業・NPO・行政の協働による「公共」＝「新しい公共」”の理念を実現する様々な施策が動き出します。担い手づくり・活動の基盤整備などの様々な事業を、持続的な活力ある地域づくりにつなげることを目指し、県内の中間支援組織と連携しながら、地域の実情に合った事業を実施していきたいと思っています。

会員の皆様、地域の皆様におかれましては、本センターへご意見、ご批評をいただくとともに、引き続きセンターの事業をささえていただきたくお願い申し上げます。

2010 年度事業報告

1 . 今治市民活動センター管理運営事業

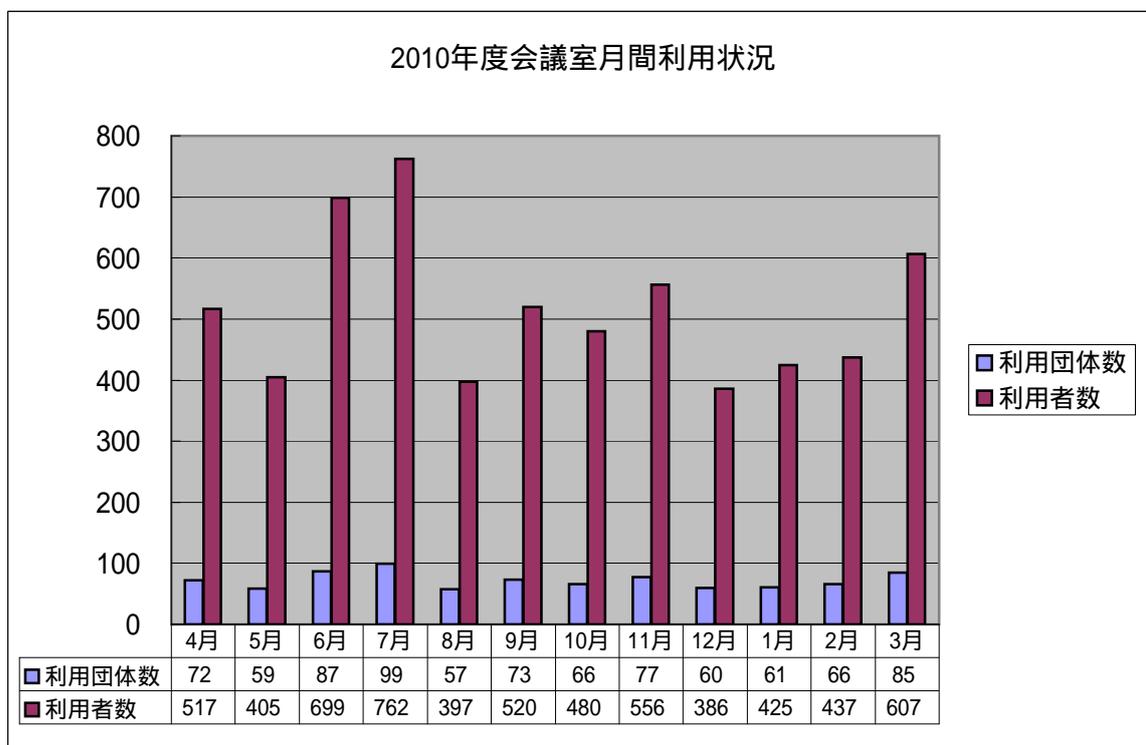
(1) 施設の運営業務 (使用調整、受付・案内業務など)

内容	通年事業 (月から土曜日 10 時 ~ 19 時開館 (事前申込みがあれば、日曜日、祝日 10 時 ~ 18 時開館。平日 22 時まで開館)) ・貸会議室の無料提供 (登録団体に限る) ・機材の貸出 ・情報交流スペースでのインターネット回線の利用や書籍の貸出 ・貸事務所の効率的な運営
対象	センター登録者・市民ボランティア・一般
手法	・スタッフは利用者と積極的にコミュニケーションをはかり、意見の収集に努めた。 ・事務所入館団体募集を広報、機関紙等で行い、入館を呼びかけた。
結果 課題	<p>会議室の利用者は 862 団体 6,191 人となった (H21 年度 ; 682 団体、5,015 人) 。印刷機器、裁断機、紙折機、プロジェクター、スクリーンなど、市民活動団体の広報活動、会議の運営などに欠かせない備品が整い、多くの方に利用いただいた。デジタルカメラ等、ワークショップやイベントの記録等に活用できる備品貸出のニーズが寄せられており、今後、貸出のしくみを検討したい。1 階ロビーにある、インターネット接続済みのパソコン利用や書籍閲覧ができるスペースの活用も増え、会議終了後、懇談する姿も見られるようになった。</p> <p>貸し事務所には 7 団体が入館しており、内 1 団体は 2 部屋を使用している状況である。事務所を持つことで活動の幅が広がるなど、その効果も生まれている。貸出の許可等の手続きが指定管理者に委譲され、簡易になり、入館団体には好評である。</p> <p>センターの認知度が徐々にはあがってきているが、初めて足を運んだ方から「何をしている施設が分かりにくかった」等の声をいただく。市民活動未経験者層にも気軽に足を運んでもらうことができるしかけを引き続き検討していきたい。</p>

センター利用状況詳細

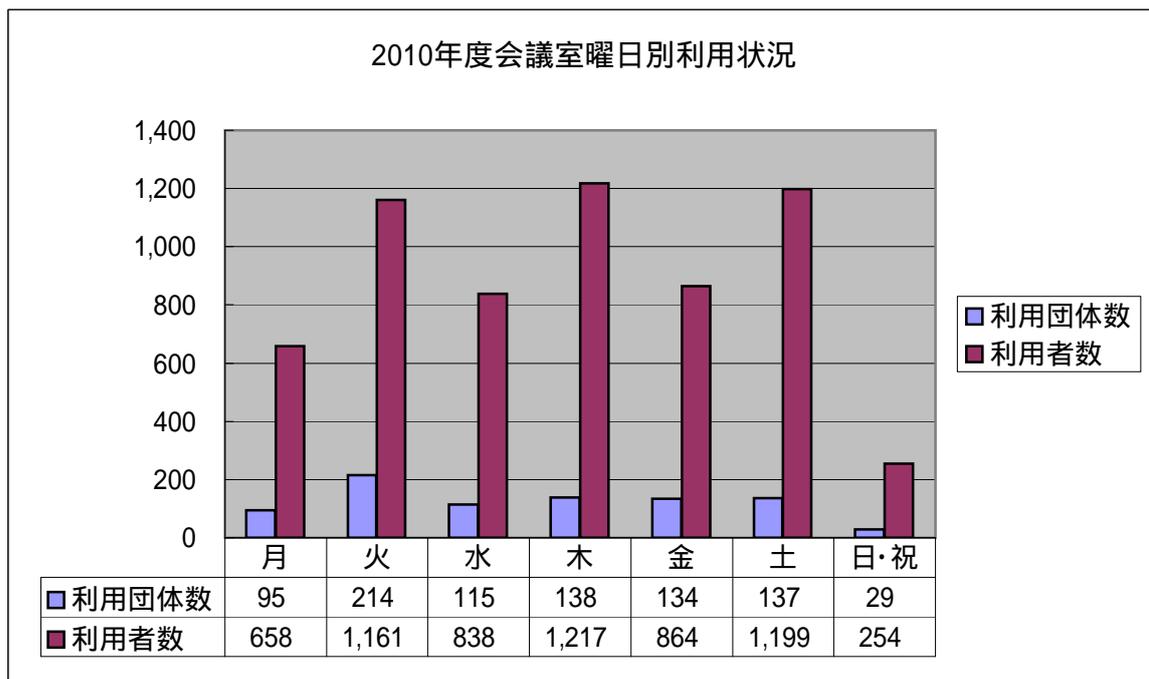
【センター利用状況(月間)】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用団体数	72	59	87	99	57	73	66	77	60	61	66	85	862
利用者数	517	405	699	762	397	520	480	556	386	425	437	607	6,191



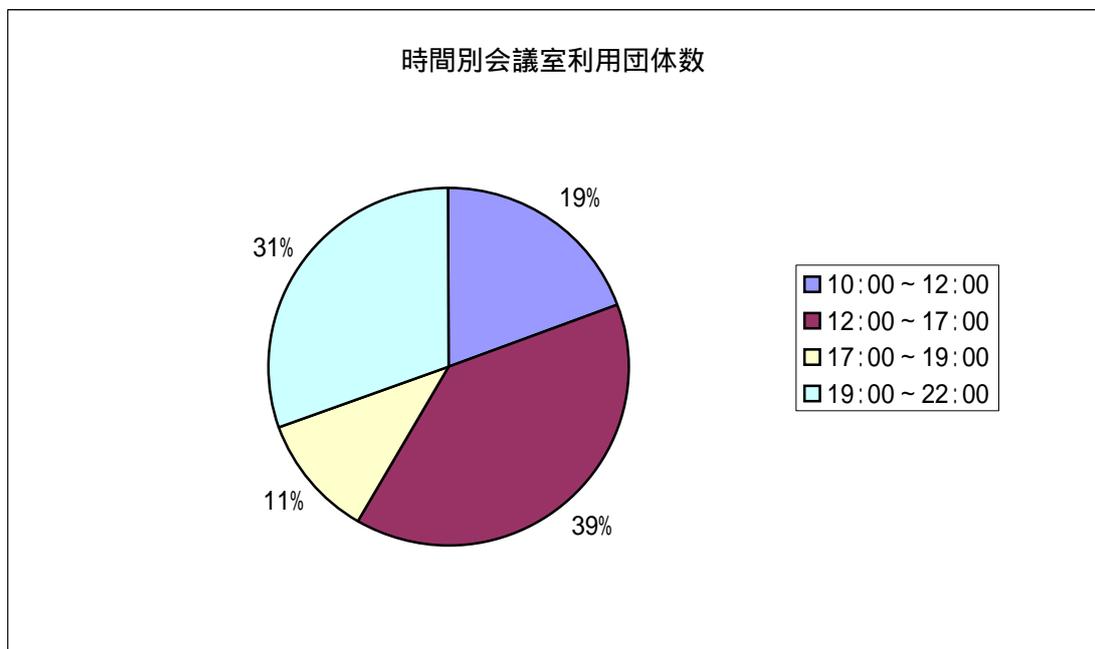
【センター利用状況(曜日別)】

	月	火	水	木	金	土	日・祝	合計
利用団体数	95	214	115	138	134	137	29	862
利用者数	658	1,161	838	1,217	864	1,199	254	6,191



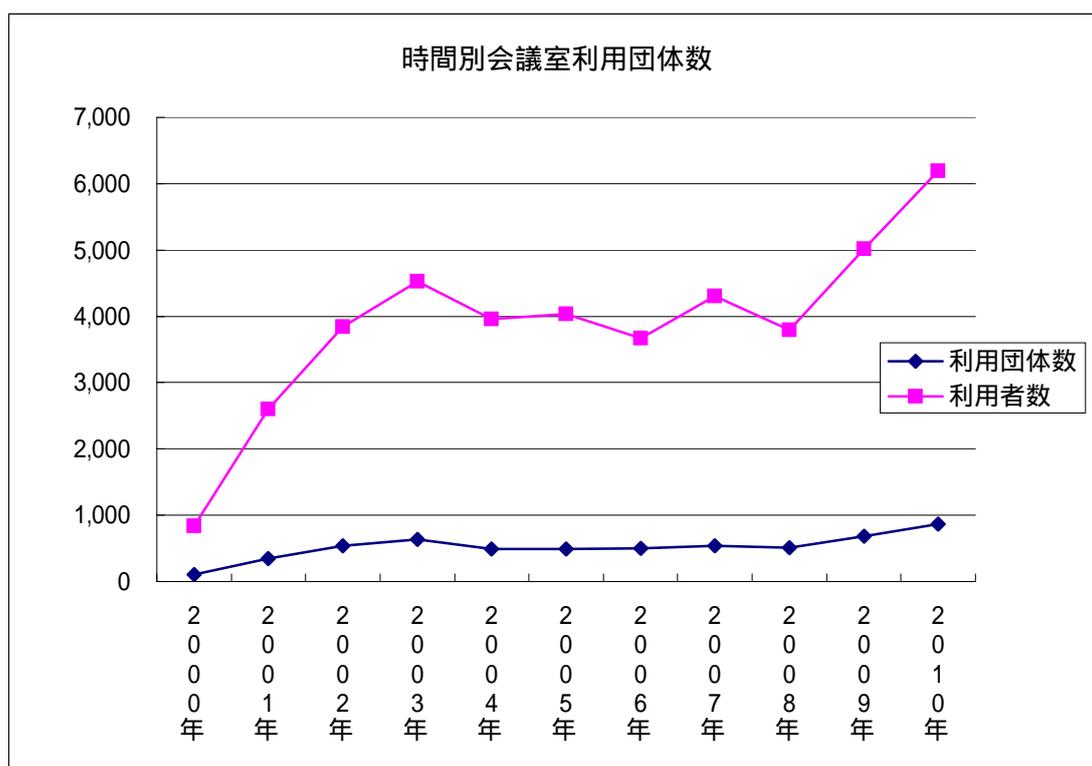
【時間別会議室利用団体数】

利用団体数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
10:00～12:00	14	21	24	25	19	21	19	21	19	16	16	18	233
12:00～17:00	28	20	30	34	23	25	24	29	22	27	21	32	315
17:00～19:00	8	2	6	7	0	2	1	4	3	5	7	12	57
19:00～22:00	22	16	27	33	15	25	22	23	16	13	22	23	257
合計	72	59	87	99	57	73	66	77	60	61	66	85	862



【年度別利用数比較】

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
利用団体数	106	345	542	640	489	492	496	543	510	682	862
利用者数	833	2,597	3,841	4,528	3,957	4,037	3,673	4,306	3,790	5,015	6,191



(2) 市民活動団体のスキルアップのための研修業務

<p>内容</p>	<p>(第1回)平成22年6月20日(日)13:30~15:00 テーマ:社会参加と自立を考える 地域を耕す“しかけ”と“しくみ” 冒頭、農業・水産業の活性化、観光振興など、今治市の取り組み事例が報告され、自らが楽しむこと、現金収入を得られるというやりがいなど、一市民が参画する上でのキーワードを共有した。後半は、多様な地域資源や担い手がネットワークを組むこと、実践・発信がつながりを生むことなど、地域を元気にするために求められる視点を提起。規制緩和や公益的なサービス拡充につながる官の理解と官民協働にも触れた。</p>  <p>(第2回)平成23年1月30日(日)12:30~15:30 テーマ:社会参加と自立を考える 見る!聞く!学び合う!国際協力の世界 実践者を中心に、約50名の市民が事例共有やパネルディスカッションを通して、現地の人々を取り巻く環境の理解、自立できる暮らし実現を見据えた国際的な行動・協力について考えました。「支える」、「つながる」ことで、社会の歯車を動かす可能性がある。「聞く」、「調べる」などして追及することで、活動の本質が見えてくることがある。そんなメッセージを共有する機会となりました。</p> 
<p>対象</p>	<p>市民団体・市民ボランティア・一般</p>
<p>手法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動未経験者層に、市民活動の意義や魅力を伝えるために、カフェスタイルをはじめ、開催形式を工夫した。 ・市民活動実践者の活動をはじめた思いや経緯をおさること、必要なサービスの創出や新しい価値の提案等を共有することができるよう、講師も交えた事前の打合せを行った。
<p>結果 課題</p>	<p>今年度は、農山漁村の自立、開発途上国の自立をテーマにトークショー形式で開催した。草の根レベルの活動実践者の交流の機会になり、必要なネットワーク構築が議論できたことが成果である。また、こうした草の根の活動の事例共有を通して、参加者が個別具体の諸問題に関心を持つきっかけにもなった。</p> <p>ボランティア精神に支えられた小さな活動が多様に展開される中、社会変革の息吹となるよう、プラットフォーム化、協働推進につなげたい。</p>



第2回 社会参加と自立を考える 地域を耕す“しかけ”と“しくみ”



ご来場ありがとうございました！！

6月20日(日)、さいさいきて屋 saisai cafe で開催。
美しい風景、息づく歴史、豊かな食材、住まう人々...私たちのまち・今治市には誇れる資源がたくさんあります。こうした**地域資源をいかした活動の担い手達は、地域活性化の“しかけ”人**です。
今回、3団体の“しかけ”人達が活動のエピソードをライブトーク！活動を深め、**まちを元気にするための“しくみ”**について意見交換しました。



西部知香さん

しまなみグリーンツーリズム推進協議会



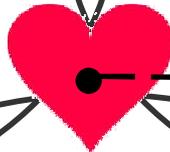
採れたて食材を提供する農家レストラン&自宅を開放した農家民宿等を手がける西部さん。「おいしい」という言葉を自信に、「また来るね」という笑顔をやりがいに...。農漁業者が消費者とダイレクトにつながる意味を語りました。

安部有里子さん

チームぎょしょく



目の前で鯛をさばく、釣りゲームで魚に親しむなど、魚離れが進む子ども達に体験型の活動を提供しています。離乳食に魚のダシを使うレシピ公開など、きめ細かなサービスは、魚嫌いだったというご自身の経験から編み出されました。



グリーンツーリズムとは...

農村地域で交流を楽しむ滞在型余暇活動のこと。しまなみでは海道沿線の島々で62の体験メニューを提供。



司会進行

愛媛大学南予水産研究センター・農学部教授 若林良和さん
「ぎょしょく教育」の普及を図りながら、地域協働のあり方を検討している。

宇都宮一成さん

NPO 法人シクロツーリズムしまなみ



小さな路地にかおる暮らしの息遣い、ポケットビーチでゆったりのおんびり島時間。ポタリング(自転車散歩)ガイドの宇都宮さんが案内するツアーは新しい旅のスタイル。リピーターが増えている現状に手ごたえを感じながら、しまなみファンづくりに取り組んでいます。

ぎょしょく教育とは...

愛媛大学との連携により愛媛県愛南町で実践されている水産版食育。魚だけでなく、魚を丸ごと理解するプログラム。今治市では、(有)エスペランスの安部さんが推進。

シクロツーリズムとは...

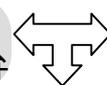
自転車旅行のこと。欧州では一般的な旅のスタイル。五感で地域を愉しむ自転車旅行が、しまなみの魅力満喫にぴったりと普及中。

3者に共通するポイント

- 自ら活動を楽しむ姿勢！
- 思いついたらやってみる機動力！
- 対象を意識した参加しやすいプログラムやオリジナルツールの開発など、随所に創意工夫！
- 団体の持つ確かで専門的な技術がミソ！
- ホスピタリティあふれる親身な対応に“ファン”増加！

地域活性化の“しくみ”とは！

西部さんが作った
サイクリスト御用達弁当・二輪弁



安部さんが作った
鯛ドーナツ

シクロ主催のツアーで
自転車旅行者に提供！大好評！！

多様な主体が資源を持ち寄る！

市民・NPO・企業・行政・学校等、異なる主体が協働することで、質の高い効果が生まれる！！

第3回社会参加と自立を考える



見る！聞く！学び合う！
国際協力の世界

去る1月30日(日)、アイシネマ今治において、開発途上国への支援のカタチを考えるシンポジウムを開催！実践者を中心に、約50名の市民が事例共有やパネルディスカッションを通して、現地の人々を取り巻く環境の理解、自立できる暮らし実現を見据えた国際的な行動・協力について考えました。

「支える」、「つながる」ことで、社会の歯車を動かす可能性がある。「聞く」、「調べる」などして追及することで、活動の本質が見えてくることがある。そんなメッセージを共有する機会となりました。

映画「おいしいコーヒーの真実」上映

コーヒー農家が受け取る対価は、私たちが支払う金額の1%に満たない現実。貿易の不正なシステムが問題で、国際商取引の現場に途上国の声が届かない不条理さを知りました。

映画は、エチオピアのコーヒー農家の代表が公正な取引(フェアトレード)を求めて奮闘するドキュメンタリー。農村で懸命に働くも収入はわずか。健康な状態を保てず、子ども達は未来を描けません。「子ども達に教育を受けさせたい。フェアトレードで少なからずUPした収入を村で蓄えよう。」皆で話し合い、意思決定する様子に見入りました。

エチオピアは、年間約700万人が、緊急支援を必要としています。アフリカの国際商取引の割合が1%上がるだけで、年間700億円を生み出すことができ、これは、この大陸が支援で得ている額の5倍に当たるとのこと。

必要なのは援助ではなく、自立を支援するプログラムなのです！



フェアトレードとは
買うことは「選ぶ」こと
食品、洋服など、途上国でつくられた様々な商品。環境や伝統を大切にされた商品も多く、新しい価値に出会うことも！
作り手の生活の持続的な安定を目指すフェアトレード商品を、毎日の生活に取り入れてみませんか。

コーディネーターから

保護者の収入では生活できない、子ども達も労働力。そんなアジア農村部において、持続可能な自立生活を現地の人と共につくるNGO・JPCOM 桑原英文氏がコーディネーター。

事例発表団体との質疑の中で、現地を知っている一人としての様々な「期待」が投げかけられました。

安易な援助から一歩踏み込み、起きてい
る事実に向き合う中で、納得して活動に参加して欲しいとエール！

by JPCOM 桑原英文

事例発表&パネルディスカッション

今治東ライオンズクラブ

ミャンマー、ラオスとの国境に位置するタイ最北部のチェンライ県。寒暖の激しい地域に粗末な住居で暮らすのは避難民として移り住んだ少数民族。地域社会から存在を忘れられた環境への支援として、現地在住のメンバーと連携し、防寒着を送っている。

期待:「恵まれない人」ではなく、「恵まれない環境」にある人。社会的背景を理解し、現地の人と連帯した活動をするのが大事。

今治精華高等学校(通信制課程)

ペットボトルのキャップを集め、リサイクル事業業者に買い取っていただいた売却益をワクチン購入費として寄付する取組に学校として参加。環境を考える行動にもつながる「エコキャップ運動」として広がる一方、効率性やコスト等の面で、継続する中での課題も。

期待:アルミ缶・キャップ収集etc企業責任に訴えることも必要。集める行動の意味を深彫りすると見えてくることも。

インドマイトリの会

マイトリとはインドの言葉で「友愛」。お釈迦様「涅槃(ねはん)」の地という縁から理事として参画する高木さん。仏教の教えである「利他」の精神をもとに、経済成長が止まる日本において、NGO等の活動に若者を中心に多様な人が関わる意味を示唆。

期待:日本で活動に参加する意味とは?ボランティアマインドが育まれること、自身の行動(生活)が変化することも価値。



あなたが、スラムの人たちを前にして考えるべきことは、彼らのニーズとは何か、そのために何をするかということではなく、もし彼らやコミュニティが本来持っている力を発揮することができたならば、どう行動するかということ、そしてあなたはどのようにして、彼らの自由を拡大できるかということである。
by アマルティア・セン(ノーベル経済学賞受賞者)



ガールスカウト日本連盟愛媛県支部第2団

ミャンマー難民に文具の入ったピースバックを送るプロジェクト(今は、形を変えて継続)。アルミ缶を集め、文房具購入費用を確保しながらの、身の丈にあった活動を続けている。バッジをつけるなど、メッセージを込めた布袋は長く大事に使ってくれており、励みになる。

期待:文具送付と教育支援が一体となったプロジェクトも!実践を知り、納得できるプログラムを選択することが大事。

聖カタリナ大学

先進国の私たちと途上国の子どもたちが食事を分かち合うというコンセプトの「TFT」。途上国の学校給食1食の金額は20円。この金額を定食1食を食べるごとに寄付する。2008年10月に聖カタリナ大学の学食でスタートし、学生の自発的な取組を展開。

期待:学内でしくみが機能していることを評価。現地を知り、アドボカシー(政策提言)に踏み込むプロセスを。



学校校舎の建設からはじまり、教科書配布、教師のスキルアップ、図書館での読み聞かせなど活動は多彩。



(来場者)
・身近な団体の活動を知ることができた。
・「自立」支援の大切さ 手段と目的を混同しないようにとの示唆に感服。歴史的背景を学ぶ大切さを実感。
(登壇者)
・教育の現場でできることの可能性を感じた。
・バックグラウンドを勉強することの大切さを学んだ。

(3) 市民活動基礎講座開催業務

<p>内容</p>	<p>(第 1 回) 平成 22 年 6 月 3 日 (木) 10 : 00 ~ 12 : 00 活動の意義や魅力を他者に伝える重要性を共有した後、参加団体ごとに自身が「どんな団体か」、他者に「どんな団体に思われているか」を整理した。多くがギャップがあることを認識しており、そのギャップを埋めるキャッチコピーの制作など、手法を検討する講座を行った。</p> <p>(第 2 回) 平成 22 年 6 月 24 日 (木) 10 : 00 ~ 12 : 00 参加団体の組織・運営の課題、事業・活動の課題を抽出し、課題解決の優先順位と、コミュニケーション・広報を通じて解決できるかどうかの議論を行った。誰に、どんなことを伝えるかツールとするかを整理し、成果物のイメージを共有した。</p> <p>(第 3 回) 平成 23 年 1 月 12 日 (木) 10 : 00 ~ 12 : 00 広報ツールとして V T R を製作するにあたり、「 K 9 C L U B 今治 」のメンバーを中心にビジュアルツールの強みを再確認した。その後、団体として伝えたいことをまとめるワークショップを行い、実際にインタビュー形式で対応するワークを行った。</p>	 
<p>対象</p>	<p>市民活動に関心のある一般市民、 N P O 法人設立を考えている方</p>	
<p>手法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 団体を運営していくために必要な資源を集めるために、広報力向上が一つのポイントになることを共有するワークショップとした。 ・ 広報スキルを高めたい団体を集中的に支援することで、具体的な成果創出を目指した。 ・ 出来上がった成果物を次の展開で活用し、市民団体同士の交流、市民活動未経験層が気軽に市民活動に触れることができるよう工夫した。 	
<p>結果 課題</p>	<p>広報やコミュニケーションに課題を感じる団体を対象に、団体の伝えたいことと伝えたい相手を個別具体的に整理する作業を行った。活動の思い、抱えている課題の整理の仕方、発信のツールを共有する作業は、団体のメンバーの活動の見直しにつながるものとなった。今年度は V T R を製作し、実際の広報活動に役立てていただくことができた。</p> <p>会報やチラシ、 W E B サイト等、様々なツールによる活動の告知がある。市民活動の広がり、深まりにつながるよう、広報力やコミュニケーション力の向上に役立つ支援を引き続き行っていきたい。</p>	

(4) 機関紙発行とこれに付随する情報収集業務

内容	「夢サラダ」(年間3回)、「得夢サラダ」(年間12回)を編集、発行した。また、活動経験のない一般市民に情報を届け、市民活動の意義や魅力を伝えようと、「夢サラダ」配布場所を開拓した。
対象	市民活動団体・一般
手法	・活動の担い手を紹介することで、まちの特性を感じることができる誌面とした。 ・ホームページでも情報を伝えた。
結果 課題	市民活動団体124団体、施設・機関33箇所に配布した。配布部数は毎月冊子2189部、掲示用371部となった。身近な地域の魅力を伝える誌面構成としたことで、市民活動経験のない方にも読みやすいとの意見をいただいた。掲載内容は、本会のホームページへ掲載し、多様な方へ情報を届けるよう努めた。より多くの方に購読してもらえるよう、誌面の工夫、配布・掲示場所の開拓に取り組んでいきたい。

(5) 市民活動団体相互の交流推進業務

	<p>使用者協議会 平成22年5月6日(木)10:30~11:30 参加者:8名 事務室入館団体の皆さんと合同でセンター防火・避難訓練を行い、その後、今年度のセンター事業の企画内容を説明し、使用者の意見をもらう「使用者協議会」を開催した。今治市民活動センターの運営のあり方、施設の良い点、改善点などを意見交換した。</p> 
対象	使用登録団体・市民ボランティア・行政職員
手法	・今治市内の団体の活動紹介の場とする。 ・多様な活動に触れ、活動の広がりを感じてもらえる取り組みとした。
結果 課題	「使用者協議会」の位置づけで、センター事業を話し合う機会となった。会議室や事務所の使い方のルール等の見直し、講座のテーマの検討等、ハード・ソフト両面について、使用者自らが参画しながらセンター運営していけるよう、協議の場を有意義なものにしていきたい。

(6) ボランティアコーディネート業務

内容	ボランティアの応援を求めている方とボランティア活動をしたい方をつなぎ、双方が対等な立場で共に問題解決を図った。
対象	ボランティアの応援を求めている組織・個人 ボランティア活動をしたい方
手法	・今治市社会福祉協議会と連携をとりながらすすめる。 ・情報提供を求めている人には、機関紙「得夢サラダ」やホームページなどを利用して活動を紹介する。
結果 課題	初めて来館するボランティア活動希望者19件、ボランティアを受け入れたい組織・個人106件のコーディネーションを行った。ボランティア活動のきっかけづくりを目的に実施された「サマーボランティア・キャンペーン2010」「ウインターボランティア・キャンペーン2010」(愛媛県主催)の窓口の機能を果たすことで、よりきめ細かな情報発信や需給調整ができた。ボランティアコーディネーションを通して、市民活動団体が多様な人を巻き込み、活動を発展させることができるよう引き続き、調整をしていきたい。

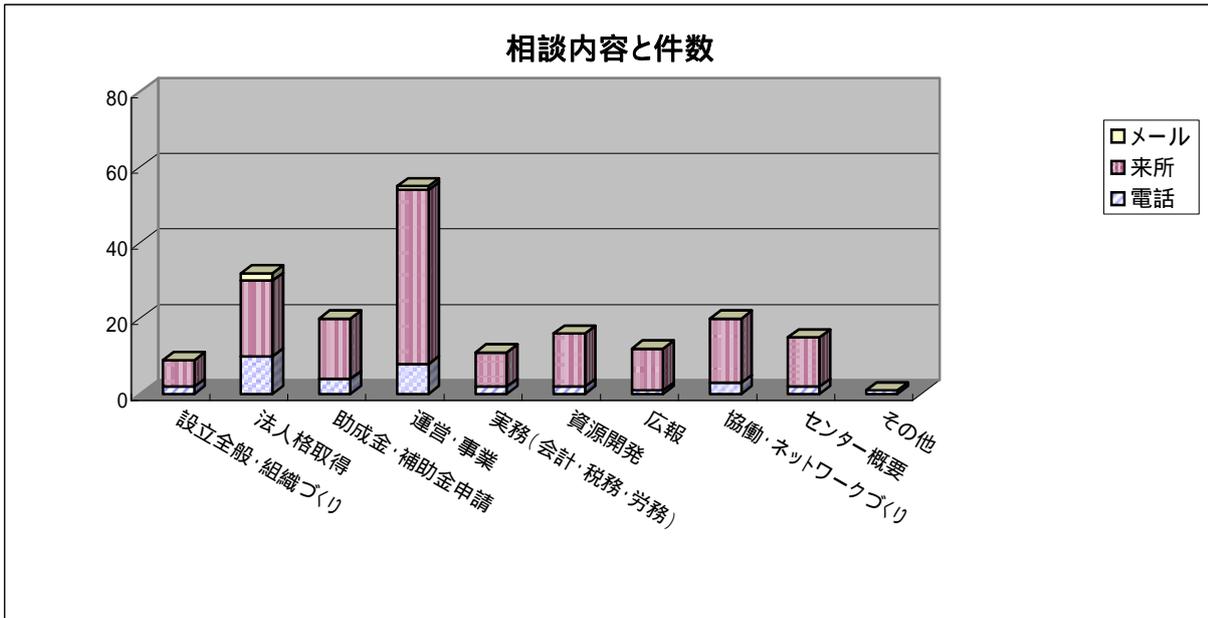
(7) 相談業務

内容	団体設立や運営などのアドバイスを、電話・メール・来所にて日常的に受け付け、対応した。
対象	市民団体・行政職員
手法	・市民活動団体が自らの課題を整理し、その解決策を発見することを支援する。 ・職員で対応できない専門的な質問については、地域資源(地域の専門家、他の支援センターなど様々なテーマに応えられる人、組織)を活用し、支援を行う。 ・初歩的な質問については、フロアーに掲示し、来館者に視覚的に知らせる。
結果 課題	団体設立や運営など、191件の相談に電話・メール・来所にて対応した。「ネットワークづくり」「マネジメント」「資金調達」などについての相談が寄せられ、情報提供・サポートを行なった。相談に答えるだけでなく、相手の次のニーズをコミュニケーションの中で引き出し、対応した。「NPO法人設立」の事務的な相談件数が増加したことを受け、相談者に情報を提供する紙媒体の掲示物を充実させた。今後も市民団体の現状、抱える課題、目指す方向性などに合わせた個別対応により、団体の資源調達力、マネジメント力向上に貢献したい。

相談状況詳細

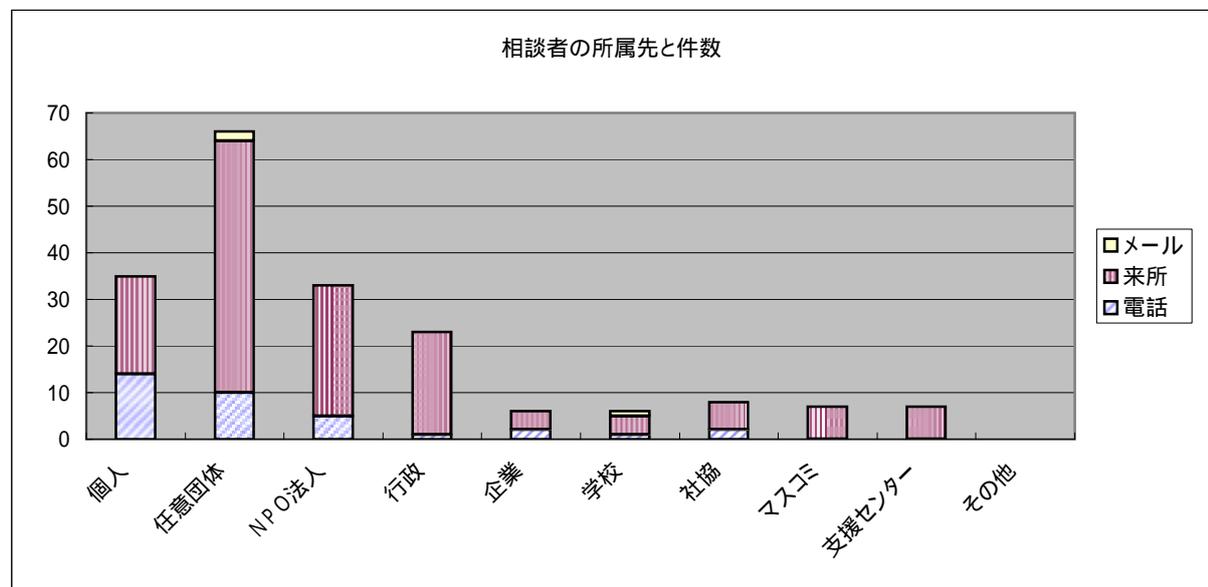
【相談内容と件数】

	電話	来所	メール	合計
設立全般・組織づくり	2	7	0	9
法人格取得	10	20	2	32
助成金・補助金申請	4	16	0	20
運営・事業	8	46	1	55
実務(会計・税務・労務)	2	9	0	11
資源開発	2	14	0	16
広報	1	11	0	12
協働・ネットワークづくり	3	17	0	20
センター概要	2	13	0	15
その他	1	0	0	1
合計	35	153	3	191



【相談者の所属先と件数】

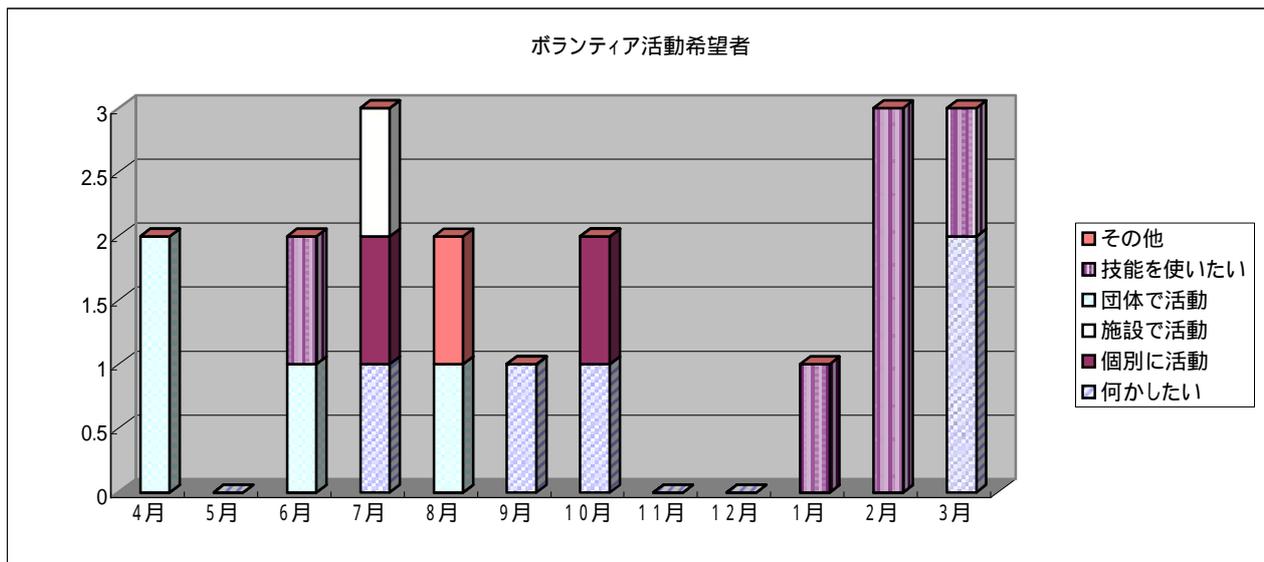
	電話	来所	メール	合計
個人	14	21	0	35
任意団体	10	54	2	66
NPO法人	5	28	0	33
行政	1	22	0	23
企業	2	4	0	6
学校	1	4	1	6
社協	2	6	0	8
マスコミ	0	7	0	7
支援センター	0	7	0	7
その他	0	0	0	0
合計	35	153	3	191



コーディネート状況詳細

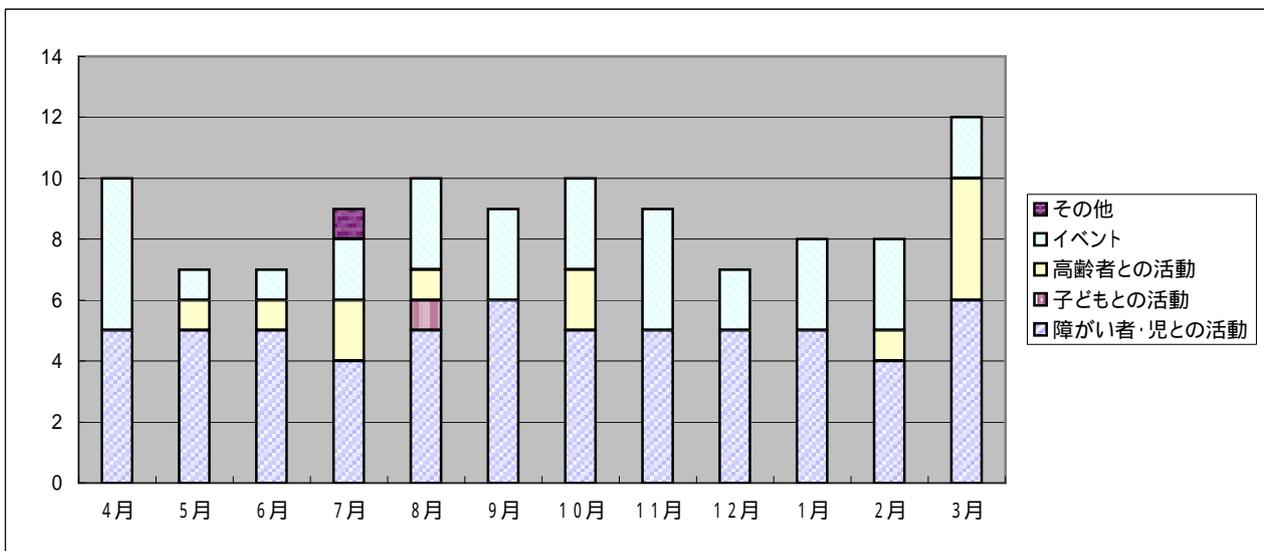
ボランティア活動希望者

ニーズ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
何かしたい	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	2	5
個別に活動	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2
施設で活動	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
団体で活動	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4
技能を使いたい	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3	1	6
その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	2	0	2	3	2	1	2	0	0	1	3	3	19



ボランティアを受け入れたい組織・個人

ニーズ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
障がい者・児との活動	5	5	5	4	5	6	5	5	5	5	4	6	60
子どもとの活動	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
高齢者との活動	0	1	1	2	1	0	2	0	0	0	1	4	12
イベント	5	1	1	2	3	3	3	4	2	3	3	2	32
その他	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	10	7	7	9	10	9	10	9	7	8	8	12	106



3. その他の事業

(1) 情報提供事業

期間	手法・内容	協力者
平成 22 年 4 月 ～平成 23 年 3 月	<p>地域の情報を広く社会へ伝える手段であるコミュニティ方法を媒体に市民活動団体紹介、ボランティア情報などを毎週 1 回に発信した。</p> <p>トークカフェ in ラジオバリバリ</p> <p>草の根活動の動きを大きなチカラにしていくために、ラジオを通して人と人の交流を深める趣旨で展開した。(今治市民活動センター管理運営事業自主企画事業) 様々な分野の活動規模も多様な団体が、ラジオというメディアを通して、広報活動を展開する場となった。日々の暮らしの中で感じる些細な気づきをもとに、身近な仲間たちの小さなグループからはじまる様子が伝えられた点、少人数ながら思いや責任感や役割を分担し、地域に根ざして活動する様子などは、活動未経験者へ大きなメッセージとなった。一方、こうした活動が事業を継続したり、拡充したりする力が不十分な点も見え、今後、一つ一つの活動が成熟した市民社会実現を目指す大きな広がりになるよう、人的交流や相互連携を生み出していくしくみの構築を感じた。</p> <p>今後は、こうした情報発信の場においても、事例等の共有をより有意義に進められたり、活動に必要なしくみを学んだりできるような展開を考えたい。</p>	エフエムラヂオ バリバリ
平成 22 年 4 月 ～平成 23 年 4 月	<p>センター事業の紹介と報告、ボランティア情報などをホームページに随時掲載した。広く情報を受発信することにより、ボランティア活動の仲介コーディネーション業務にも役立った。市民団体、ボランティアの方から気軽に情報を寄せてもらえるような仕組みづくりが課題である。</p>	

(2) 審議会・委員会への参加事業

行政が設置する委員会・審議会へ参加しました。

期間	名称（主催団体）/参加の立場	テーマ・目的
平成 22 年 4 月 ～平成 23 年 3 月	東予ニューツーリズム検討会議 (愛媛県) 委員委嘱	ニューツーリズムの検討 資源の評価、モニターツアー構築
平成 22 年 4 月 ～平成 23 年 3 月	今治市廃棄物減量等推進審議会 (今治市ゴミ減量推進課) 委員委嘱	一般廃棄物の減量、資源化、適正処理などの調査や審議を行い、意見を答申
平成 22 年 4 月 ～平成 24 年 3 月	ヤングボランティアサポート委員会 (愛媛県) 委員委嘱	青少年の自主的・自発的なボランティア活動を支援する「ヤングボランティアセンター」の事業推進の検討
平成 22 年 8 月 ～平成 24 年 7 月	今治市定住自立圏共生ビジョン懇談会(今治市) 専門委員委嘱	広域合併した今治市のビジョン懇談において、市民活動・ボランティア推進への意見集約

平成 22 年 4 月 ～平成 23 年 3 月	今治市男女共同参画審議会 (今治市市民まちづくり推進課) 委員委嘱	男女共同参画に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための検討と男女共同参画計画の答申
平成 22 年 9 月	東予地方局地域政策懇談会(愛媛県東予地方局) 委員委嘱	東予地域の地域課題等を踏まえ、「地域振興重点化プログラム」に沿った 23 年度以降の事業立案検討
平成 23 年 1 月	県政テレビ広報番組放送に係る企画コンペ(愛媛県) 審査委員委嘱	平成 22 年度県政テレビ広報番組放送に係る企画コンペ審査

(3) 講師派遣事業

依頼に基づき、講師を派遣しました。

期間	名称(主催団体)/参加の立場	テーマ・目的
平成 22 年 8 月 20 日	平成 22 年度福祉教育研究セミナー (社福)鳥取県社会福祉協議会) パネリスト	地域で取り組む福祉教育のススメ 地域の福祉力の形成へ結びつく福祉教育の展開を考えるセミナー
平成 22 年 10 月 24 日	今治タオル体操コンテスト(今治タオル体操愛好会) 審査員	今治タオル体操の普及を目指すコンテスト
平成 22 年 11 月 21 日	わんわんフェスティバル(K9クラブ今治) 審査員	犬の特性を理解し、犬をしつける力等を養う活動などを通して、暮らしやすいまちづくりを進める取組の啓発イベント
平成 22 年 12 月 5 日	えひめ男女共同参画フェスティバル 2010 “絆” 企画募集イベント (今治タオル体操愛好会) パネリスト	女性参画のまちづくり活動「今治タオル体操愛好会」の 10 年の歩みを振り返り、まちづくりのキーワードを意見交換するシンポジウム
平成 23 年 3 月 23 日	NPO 法人事業力向上セミナー 相談員	NPO 法人の事業力向上を目的とした研修会会場において、活動資金の確保、法令に基づく事務手続きなどを助言する個別相談会

(4) 協力事業

期間	名称(主催団体)/参加の立場	内容
平成 20 年 4 月 ～平成 21 年 3 月	I C P C 協議会への参加	みなとを活動の地盤として、広く中心市街地の活性化をするための検討やイベント等に関わった。

(5) 資源回収活動事業

再生可能な資源ごみを回収した。

(6) いまばり夢学校開校準備事業

次年度への引継ぎ事項として共有した。

(7) 「しまなみ資源」を活用した地域振興事業

しまなみスローサイクリング協議会の支援を行った。

4. 会議に関する事項について

(1) 総会

第11回通常総会

日時：平成22年4月28日(水)19:30~

会場：今治市民活動センター 大会議室

議題：2009年度事業報告・収支決算報告

2010年度事業計画・収支予算の件

2009年度役員・有給役員の件

2010年度役員・有給役員の件

(2) 理事会

2010年度第1回理事会

日時：平成22年4月28日(水)19:00~

会場：今治市民活動センター 大会議室

議題：2009年度事業報告・収支決算報告

2010年度事業計画・収支予算の件

2009年度役員・有給役員の件

2010年度役員・有給役員の件

2010年度第2回理事会

日時：平成22年7月27日(火)19:30~

会場：今治市民活動センター 大会議室

議題：今期今治市民活動センター事業「第3回社会参加と自立」企画検討

今治市民活動センタースタッフの件

2010年度第3回理事会

日時：平成22年8月24日(火)19:30~

会場：今治市民活動センター 大会議室

議題：委員会・審議会への参加の承認

今期今治市民活動センター事業「第3回社会参加と自立」企画検討

今期今治市民活動センター事業「菅市長と語る会」企画検討

次期今治市民活動センター事業企画検討

2010年度第4回理事会

日時：平成22年9月28日(水)19:30~

会場：今治市民活動センター 大会議室

議題：講師派遣の承認

次期今治市民活動センター事業企画検討

2010年度第5回理事会

日時：平成22年11月28日(火)19:30~

会場：今治市民活動センター 大会議室

議題：次期役員体制の検討

今治市民活動センタースタッフ処遇の検討

2010年度第6回理事会

日時：平成23年1月30日(日)16:00~

会場：今治市民活動センター 大会議室

議題：次期今治市民活動センター事業企画検討

2011年度「新しい公共」支援事業の検討